

第2回 いばらき自転車活用推進委員会における主な意見

第2回 いばらき自転車活用推進委員会における委員からの主な意見(指摘事項)は下表の通りである。

No	委員	項目	主な意見(指摘事項)
1	本村委員	データの活用について	・将来的なことも踏まえると、モビリティをスマートシティの文脈でデータに基づいて発展できるようにしようという機運が全国的にある。今回の県としての対応状況でデータの活用が一段落してしまうのではなく、データの活用は引き続き検討していただきたい。
2	本村委員	データの活用について	・オープンデータを公開する場合、集計データになると思うが、次のステップがいきなり生データという概念になってしまっている。生データの公開は様々なハードルがあり、困難であることは理解しているため、その中間となるような 施策のために活用できるようなデータの公開を検討していただくと活用が広がると思う。(例:クロス集計表や、特定の仮説について比較して、その仮説が成り立っているかどうかを判断できるタイプのデータ)
3	中島委員	データの活用について	・県のオープンデータ公開のサイトを拝見した。分量が多いため、全体的なデータの公開方法に関してはこの形でいいと思うが、可能であれば サマリー版を公開し、サマリー版を見て興味がある方がもっと深掘りするために問い合わせをするという形にしたほうがよいのではない か。現状どのような情報があるのかもわからない状況である。
4	絹代委員	安全教育について	・安全教育について、対応状況に「ルール・マナーの遵守状況に差異が見られており、安全教育では結果に応じた周知啓発を進める」とあるが、この「結果」というのはアンケートで皆さんが「守っている」と言ったかどうかということが結果なのか。 ・他地域で同じようなアンケート調査を実施しているが、結果では「左側通行をしている、一時停止している」と答えるが、実生活で全然していない方が多い。意識しないまま逆走したり、意識しないまま交差点をそのまま直進したりという方が多いのが現状だと思う。守っている、知っていると答えたからOKと流してしまうと結局状況が変わってこない。 ・ 遵守状況の回答が結果としてみなされる形であると現状は変わらない。 今、日本中で自転車事故が増えている状況である。茨城県内のほかの市で私が委員をやっているが、死亡事故が起きてしまっている。重篤な事故が増えてしまっている。 アンケートの結果は鵜呑みにせず、慎重に進めたほうがよい。
5	室谷委員	目指すべき将来像について	・印象として、 まちづくりの視点で考えると、観光も含めて、住民との交流、関係人口、交流人口促進というところは非常に大事であると思う。 乗って楽しいことだけがクローズアップされている気がする。
6	絹代委員	目指すべき将来像について	・(補足資料で)国内外からのサイクリストが「安心して何度も楽しめるサイクリング王国いばらきの実現」について、 どれも必要な項目だと思う。 ・ただし、「何度も」というのは恐らくリピーターを獲得していくという切り口だと思うが、この計画の中にリピーターを得るといった文言はなかった。 ・滋賀県は、一般市民の方でもこういうビジョンを持って進めているということが理解しやすいページになってくるので、住民の方との接点としてはわかりやすく将来の姿をまず描くというのは効果があるというのは理解している。ただ、関係人口を増やしていく、この土地に特別な感情を持って通ってくれる人を増やすというような項目が掲げられているわりには、「 何度も 」に関わる 施策・措置今の計画にないように見えるため、どこかに要素を入れていただきたい。
7	絹代委員	目指すべき将来像について	・安全・安心のところはかなり強く言われているが、安心・安全の将来で描いているところが弱い。ルールを守ることがまず大切。 ルールをまず絶対に守らなければいけないところを今後強く出していかなければいけないと思うので、文言は注意していただきたい。
8	絹代委員	目指すべき将来像について	・自転車に反射材がついているという表現について、無灯火の車がトンネルの中に入ってきた場合反射材だけでは見えない。ライトが重要であるため、将来像のイメージでわかりやすく伝えることは重要である。 特に安全・安心や、リピーターを得る等、将来の姿で掲げているキーワードはぜひこのページの中に描き込んでいただきたい。
9	本村委員	目指すべき将来像について	・ 事故詳細のデータは安心・安全のために活用することは検討しているか。 ・データの活用という大ごとのように聞こえるが、何度も楽しめるといったリポートしているかどうかをどうやったらわかるかとか、 安全・安心のために過去の事故情報の伝え方等で具体化できるのではないか。
10	本村委員	目指すべき将来像について	・ 今回、目指すべき将来の姿がかなり大きくいい方向に変わったという印象を受けている。 サイクルツーリズムを中心にした用語が右のほうに変わったことで行動が伴った形に変わっている。
11	本村委員	目指すべき将来像について	・「 楽しく 」の主語を明らかにしようと思うと、SDGsなどでも歌われているマルチステークホルダープロセスといった 対話が重要であるという方向に行くと思う。 今回の勉強会を通じて 対話のプロセスが入ったことで主語やアクションが明確になったという効果 だと思う。結果だけ見ると唐突に見えてしまったが、とても良い兆候だと思うので、そういう方向性であるということが明確に盛り込まれる、あるいは意識されるとよいと思った。

No	委員	項目	主な意見（指摘事項）
12	川崎委員	目指すべき将来像について	・霞ヶ浦りんりんロードは多くの人々が来訪している。リピーターも来訪している。ロードレースで走る方、レンタサイクルでゆっくり走る方もいる。霞ヶ浦一周という反時計回りで走ってきたが、りんりんポートができて、レンタサイクルをやっているということで、右回りで霞ヶ浦交流センターに行って帰ってくる方が多くなった。左回りのロードレーサーが30～40キロで走ってくる。片やこちらは15～20キロ、またお子さんもいる。 サイクリングロードの走り方のルールも決めて提示したほうがよい。
13	川崎委員	目指すべき将来像について	・今、車と自転車と言われているが、自転車が多くなると、自転車同士、自転車と歩行者の事故も増えている。サイクリングロードは歩行者も歩く。対向車が来たら減速するとか、ライトを点滅するというのも車だけでなく、歩行者や対向の自転車に対して、スマホを見ながらのながら自転車の方もいるので、 ルールづくりは必要である。
14	宮内委員	目指すべき将来像について	・本計画で目指すべき将来像について、「安心して」部分に「安全・」が抜けている。自転車の走行に関する安全と安心は内容としては重なっている部分はあるのだが、別の部分もある。 「安全・」は残していただきたい。
15	宮内委員	目指すべき将来像について	・ できれば「誰もが」という言葉も入れていただきたい。 初心者から、スピード走行を楽しむ愛好者もいれば、外国から来る方いれば、子どももいる。
16	平田委員長	目指すべき将来像について	・サイクルツーリズム構想と自転車活用推進計画の二重なので、今の将来像がわかりづらい。 ・何が重要かということと、 階層になっているのであれば、大テーマとサブテーマと分けてもよい。 工夫していただきたい。
17	中島委員	目指すべき将来像について	・将来の姿のところに「楽しい」という言葉を入れることには大賛成である。ツーリズム文脈においても健康増進の文脈においても、人々の行動を一番モチベートするのは楽しいかどうかということだと思う。安全・安心が下支えにありつつ、楽しさが大事である。 ・本村委員の主語が誰なのかという話や、室谷委員の 乗る人だけでなく地域住民との交流、対話という話で言うと、乗りに来てくれる方が楽しいだけでなく、それを通して受け入れる方々も楽しい、自転車を通した交流を通じてみんなが楽しくなる社会が目指すべき姿だと思う。 そういった意味を含めて「楽しい」という言葉を使うのは賛成である。
18	中島委員	目指すべき将来像について	・将来ビジョンについて文章では伝わりづらかったり、解釈に差が出たりする。 達成すべきビジョンをイラストにし、そのイラストの中には上級サイクリストもファミリー層も楽しんでいる、受け入れる地域側の方々が笑顔で、道路環境が整備されているという、理想の一枚絵があると県内外にアピールしていくときにわかりやすいのではないか。
19	平田委員長	目指すべき将来像について	・地球環境にやさしいとか健康というよりも、突き詰めると、楽しいから乗るという側面もあるかもしれない。サイクルツーリズムを前面に押し出しすぎだと感じていたり、なぜサイクルツーリズムを県が公共政策として進めるのかモヤモヤしているが、 自転車が身近になって、楽しんで、入口としてサイクルツーリズムの楽しさがあつた先に安全・安心に使うって、健康になって、環境にもいいとなる。いきなり環境とか健康というところに入っていくところを、入口を入りやすくした。本当の目的はその先にある。 そんなことを念頭に置いておけば公共政策として進める意味も上がってくると思う。
20	平田委員長	目指すべき将来像について	・いただいたご意見を踏まえてもう1度練った将来像に、 改めてご意見をいただいた上でパブコメをしたい。 パブコメは県民の方に伝わるものでなければもったいない。
21	室谷委員	目標について	・健康増進の部分で重点措置を上げるのはよいが、 イベントをやって終わりだったり、チラシを配って終わりだと、県内の健康増進が進まないと思う。 ・土浦市の職員と一緒に散走のワークショップをやったりいろいろなことに取り組んで自転車活用されるように役所から始めるようになったりという動きはあつたが、 継続しないとダメではないか。 クルマ依存型で自転車を活用する県民が増えないのではないか。
22	室谷委員	目標について	・ツーリズムで来訪者向けのプロモーションは非常に実施されているが、 ツーリズムが稼ぐための道具のように勘違いされている地域も多いように最近感じている。 県民が豊かに楽しく自転車を活用することによって県内の消費が増えると思う。取り組み方について踏み込んだ表現があつたほうがよいのではないか。
23	平田委員長	目標について	・モデル事業を実施し、健康効果のデータを取り、エビデンスを示しながら取組みを広げていく。初めに協力してくれる企業にもインセンティブを与えてもよいのではないか。「検討します」というと検討して実際にやらないように聞こえるため、 自転車通勤を増やす施策を本気で考える必要があるのではないか。

No	委員	項目	主な意見（指摘事項）
24	絹代委員	目標について	<p>・安心・安全の取り組みについて、ライフステージ別の具体的な計画でしっかり網羅されていて素晴らしいと思うが、チラシを配って終わりとか、数回安全教室をやって終わりとなってしまふと効果は出てこない。</p> <p>・子育て世代の保護者向けの交通安全教室というのがあるが、保護者は交通安全教室に来るのか。働きながらお子さんを乗せていて、信号無視をしたり、危険行為をしている方も多くいるのが現状である。どうやって保護者に届けるかという手法を工夫していかなければいけない。</p> <p>・子供を乗せた自転車の問題のある走行が大きな問題になっている。チラシを配っても読まずに捨ててしまう。園からの声掛けもない。目につくところにポスターを貼っておけば、保護者たちはハッと気付けるのではないかと他の自治体で話し合っている。</p> <p>・交通安全教室に集まる方は既に関心がある方である。現状を変えて、保護者が子どもにルールを伝えられるようになることを狙うのであれば、母子手帳を渡すときにリーフレットを渡してもらおうとか、時間があるとき、これから親になるときに読んでもらおうとか、シーンを選ぶ。あとは目につくところに貼る。なぜルールを守らなければいけないのかという理由を一緒に提示する。右側通行していると轢かれるからダメということを知っている方は右側通行をやめる。情報の出し方を注意していただきたい。</p>
25	絹代委員	目標について	<p>・小学生の項目で子ども自転車大会とあるが、子ども自転車大会は本当にやる気のある子どもしか参加しない。実生活の街中での自転車のふるまいを伝える安全教室、乗り方教室とは少し趣旨が違うようにも感じる。</p> <p>・長野県は交通安全教育をする機関があり、ホームルームでできる5分テストとか、そういうもので交通ルールをお子さんたちに習得させる取り組みがある。</p>
26	絹代委員	目標について	<p>・子どもたちに届くもの、保護者に届くもの、効果が出る取組みを精査する部会があってもいいと思う。効果を追求していただきたい。それがサイクリング王国の土台になると思う。</p>
27	絹代委員	目標について	<p>・ルートとコースという言葉が混同して使用されている。言葉の使い方を統一したほうが、これを受けて実際の計画を作ったり行動を起こしていく市町村は動きやすいと思う。言葉の定義をしっかりといただけたらと広がりやすいと思う。</p>
28	平田委員長	目標について	<p>・那珂市で自転車活用推進計画を策定後、直後に車道での死亡事故が起きてしまった例がある。その事例をそれで終わらせるのではなく、今後活かす。事故を見ると気をつけなければいけないと思える。</p> <p>・事故データはあまり分析されていないということであったが、市町村では結構やっている。事故データをうまくわかりやすく集計や分析して示すこと自体が安全教育になる。データ分析をうまく連携して伝えるメッセージと、また媒体が必要。</p> <p>・1期目はライフステージ別に整理していただいたのでよいが、次は従来型でない、これを超えたトライアル、効果を確認することを実験的に市町村と連携してやってみようというのがよいのではないか。</p>
29	平田委員長	目標について	<p>・子ども、中学生に関する交通安全教育についても、県庁側で検討するより、主体となる皆さんにも一緒に考えてもらい、一緒に実験に参加してもらおうとか、一方的な教育ではなく、参加型の教育の取り組み、どうやったら安全・安心な環境が作れるか、市民を巻き込んで一緒にやる。それがひいては守るという意識にもつながっていくと思う。新しい取り組みもやっていただきたい。</p>
30	中島委員	目標について	<p>・健康増進、自転車通勤について質問だが、ツーリズム領域は県が旗を振ったおかげで、やる気のある自治体とか地域ごとに差が出てきている。やる気のある地域は実効性があることをやっていて、県がさらに後押しするといういい感じの状況ができつつあると思う。自転車通勤や健康増進という文脈で、ここの地域は頑張っているとか、県内の差異はあるのか。もしあれば、そこにスポーツを当ててより伸ばしていくことを後押しされるとよいのではないか。</p>
31	室谷委員	目標について	<p>・土浦市が音頭を取って、近隣市町村と一緒に自転車通勤を促進する職員に向けてのイベントをやったと聞いている。</p> <p>・第1次活用推進計画のときに具体的に動かないといけないうことを言ったら、まず県の職員からやりませうみたいなことを当時の委員会では茨城県庁が言っていたが、実際にその後自転車を活用されているという話は県からは聞かない。市町村が実施しているからいいというわけではない。イベントで終わらせてしまっていることが課題ではないか。</p>
32	中島委員	目標について	<p>・ジャストアイデアだが、スポーツ庁では、自転車に限ったものではないが、スポーツ実施率の向上が大きなアジェンダとして挙げられている。例えばスポーツインライフプロジェクトの旗を振られている。県内にもスポーツインライフプロジェクトに賛同している企業が出ています。そういったところに呼びかけて、スポーツ実施率の向上という文脈で自転車の活用はどうですかとサジェスションしてみるとか、もしかしたら既に近い取り組みをやられているところに投げていくとか、そういうこともあり得るのではないかと。</p> <p>・プロスポーツクラブや球団もよいのではないかと。例えば、鹿島アントラーズでは自転車を活用していると聞いている。他スポーツとの連携はすそ野を広げる意味でもよいのではないかと。</p> <p>・ガンバ大阪等で、観戦型のスタジアムスポーツとサイクリングの組み合わせはほかの地域では始めている。それも面白いのではないかと。</p>
33	平田委員長	目標について	<p>・土木部が鹿島スタジアムの渋滞対策で専用レーンを作る実験をされていた。東京からの高速バスを早く行かせるとか、バスで来た人を自転車地域間移動させるとか、民間と一緒に取り組むと県としてのPRになるし、情報としてもよいかもしれない。</p>

No	委員	項目	主な意見（指摘事項）
34	宮内委員	目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉スタジアムでサッカーの試合日に実証実験を行っている。観戦客が最寄りの2つの駅から観戦に2次交通としてシェアサイクルを利用する。 ・北海道の北広島市に建設中である日本ハムのスタジアムは駅から離れている。駅から自転車を使ってスタジアムに行くアイデアもある。 ・大阪万博では環境のことも考えて自転車で行けるようにするという。 ・中島委員のご意見はかなり可能性がある。積極的に進めると自転車にふれあう機会が増えるのではないかと。
35	平田委員長	目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿島スタジアムには人がすごく集まる。元鹿島の中田選手が渋滞対策のルート案内のポスターに出ていた。鹿島スタジアムの休憩中にオーロラビジョンで中田選手などが自転車のマナーについて言ってくれても効果的かもしれない。車で来る人が大半だが、車で来る人のために自転車に配慮してくださいと言ってくれれば、間接的にメッセージが行き渡るだろう。鹿島アントラーズはそういうことに協力的な印象がある。そういうものを活用して安全教育をやるとよい。検討いただきたい。
36	室谷委員	目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・10年以上前に、川崎フロンターレからの依頼で、球場で市民向けに自転車パンク修理講座、空気入れ競争など、ゲーム感覚で遊べる、子どもや大人が参加できる講習会を自転車普及協会と一緒にやったことがある。たくさん来た。パンク修理は自転車屋に持っていきのが一番いいが、自転車屋にはパンクしてからしか行かなかったり、安全講習や、修理するとか空気を入れることすらやらない市民が多い中で、そういう機会があると自転車に少しでも興味を持つと思う。自転車の試乗会などをすると体験の機会になるのではないかと。
37	宮内委員	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料5の案内看板は英語を併記していない。インバウンド客対応を検討した場合、設置し直すかステッカーで英語表記をする手間が加わる。最初から走行中に判読できる大きさの英語表記にしたほうがよい。2月に実施するので間に合わないかもしれないが、最終形を考えたほうがよい。
38	宮内委員	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・P.64のマップで、既に県のモデルルートが設定されて、完成すればネットワークされる。その接点の部分では隣接コースにつながる。ヨーロッパのユーロヴェロやドイツのナショナルサイクルルート、スイスのスイスモビリティの自転車ルート、オーストリアのルートもそうだが、全てコースにナンバリングしている。最終形はネットワークなので、ネットワークされた時点でわかりやすいということを念頭に置いて看板を作ったほうがよい。この手法は何年も前から行われて有効である。 ・ルートは茨城県の場合4階層ある。案内看板では、ナショナルサイクルルート、県のモデルルート、市町村の支線ルート、サブルート(アクセス道路)の階層がわかるようにするべきである。スイスは、基幹道路の番号は1桁、地域ルートが2桁、ローカルルートは3桁になっている。あるいは数字の色を変えて階層を表すとか、案内看板を確認するために一時停止せずとも走行中でもパッと見てわかる工夫が必要。ユニバーサルデザインにする視点を持っていただきたい。 ・台湾も環島1号線は「1」と書いてあり、支線は「1-幾つ」と番号が20幾つまで振られていて、道路が変わればパッとわかるようになっている。そういった視点は入れていただきたい。
39	宮内委員	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・ナショナルルートは整備されたレベルが別格で、他3ルートはなかなかそこまでのレベルには仕上がっていない。サインと同様に他の要件の整備も進めていただきたい。
40	本村委員	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・ナンバリングは大事だが、ナンバリングをどのように振るかというルールは自動車道も含めて県で持っているのか。 ・ネットワーク化に当たって、今後増えることに対応できるナンバリングのつけ方を統一したほうがよい。これを機会に英語だけでなく、多言語にする。内部でデータベースにできるようにするとよい。今回標識が間に合わなかったとしても、QRコードだけでも貼れば、後で対応できる。
41	平田委員長	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村とネットワークでつながってくるときに、市町村のルートも統一的にできるとよい。ぜひ、検討してほしい。
42	平田委員長	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・県の計画なので県主体のネットワーク計画でよいが、市町村に自転車活用推進計画を作ってもらったときに、過去に市町村が市町村内の県道を市の中のネットワーク計画に位置づけて整備をお願いするということであったが、県としては全县を見なければいけないし、広域のルートもやらなければいけないため、現実問題として難しかった。 ・常総市の議論の中では、県の協力をいただいて短期にできる路線と、スペース的にもやりやすく、ネットワークとしても重要なところを県の意見もうまく引き込みながら市町村計画に落とし込んでいた。今整備しているところも見直して更新していくとか、新しく整備するところはどういう視点で協働しながらネットワークを作るかというところを、県としてどうメッセージを発するか。その辺を一緒にやってもいいという気はする。そこが非常に弱い。
43	平田委員長	ネットワーク計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・県の新しい基準で作られた道路は本当に自転車で走りやすい。停車のための空間というわけでもない。路肩が広く、停車帯としても使えるし、自転車も走れる。ピクトを引かなくても安心・安全に走れる。そのような道路がネットワーク化されてくるとよい。そのような道路は今ネットワークに入っていないなくても、積極的に位置づけしていける部分があればやっていくといい。本格的な自転車通行帯として、厳然として目の前にあるのでアピールしたほうがよい。